

大阪府立布施北高等学校学校運営協議会議事録

校名	大阪府立布施北高等学校
校長名	冨本 佳照

開催日時	令和6年11月15日(金) 13:15～15:30
開催場所	大阪府立布施北高等学校 展開1教室
出席者(委員)	松下 寛史(会長)、藤田 剛(副会長)、菊地 栄治(委員)、塚本 佳秀(委員) 浅岡 美和(委員)
欠席者(委員)	棟久 香澄(委員)
出席者(学校)	校長、事務長、教頭2名、首席1名、教諭1名
協議資料	①次第 ②布施北高校の「今」 ③中学校別入学者数まとめ ④生徒指導方針 ⑤インターンシップ事後アンケート結果 ⑥NHK World 取材のお知らせ ⑦中学校訪問セット一式

議題等(次第順)

- (1)開会 校長挨拶
- (2)委員・教員の紹介
- (3)授業見学
- (4)議事テーマ ①授業見学について ②学校の現状報告 布施北高校の「今」～中間報告～
- (5)その他 ①地域学校協働本部の報告 ②次回第3回の開催予定について

協議内容・承認事項等(意見の概要)

(1) 開会 校長挨拶

前回の協議会後も、体育祭に続き様々な学校行事が行われた。1、3年生は秋の校外学習を実施。先週には、ちょうど北辰祭(文化祭を終えたところ。2日間開催の初日は3年生が各クラスの持ち味を出した舞台発表(劇)を行い、1・2年生がそれを鑑賞した。2日めは各部活動の発表、1・2年生の工夫を凝らした模擬店や飲食店の企画があり、生徒たちの成長をうかがうことができる行事となった。現在3年生は就職活動と受験に向けた取組みの真只中である。1・2年生は前回の協議会時点とくらべて新しい学年やクラスに慣れて、落ち着いて学校生活を送れているのではないかと感じる。

来年から大阪府の入学者選抜の出願がオンライン化される。また、各校の魅力化・特色化を促進していくことが求められている。そんな中で、どのように中学生に本校の魅力を伝えるかを模索中である。今後の本校の発展のために皆様からさまざまなご意見を伺いたい。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

(2) 委員・教員の自己紹介:

各委員の自己紹介を行った。

(3) 授業見学:

3年生「生物基礎」、「キャリア演習」、1年生「家庭基礎(抽出クラス)」を見学した。

(4) 協議

① 授業見学について

② 学校の現状報告

【松下会長】

- ・昔と比べて校内の清掃が行き届いており綺麗になった。生徒同士も仲が良い。授業で教員、生徒がスクールポリシーを理解しており、教員が本校の大切にしている「めんどうみのよさ」を実践しているように感じる。

【藤田副会長】

- ・笑顔で挨拶をしてくれる生徒がおり、かわいいなと思った。
- ・「生物」の授業で担当教員が物質に生徒の名前をつけるなど生徒が興味・関心を持てるように工夫されていて、生徒のことを考えながら授業をしているのが良いなと思った。
- ・プロジェクターの使用等についても教室によって様々な活用方法があると感じた。
- ・寝ている生徒が少なくなった。基礎的な生活習慣が整っているのかなと思った。
- ・「家庭基礎(抽出)」の授業は大変面白かった。料理というテーマが教育にどのように繋がっていくのかが興味深かった。今後は実際にそれぞれが調理し、日本の生徒と関わることができれば更に良いものになりそう。

【菊地委員】

- ・「家庭基礎(抽出)」の授業について料理を通して学ぶことで多文化理解にも繋がるととても良い内容であった。
- ・教員がわからないことを素直に分からないと伝えていることに好感が持てた。

【浅岡委員】

- ・社会人準備講座について、自分自身もわかっていなかった内容もあった。親やきょうだいにそれとなく教えてもらっていた内容を、先生自身の実体験を交えて聞き・学ぶことで今後の実生活に活かすことができるのではないかと感じた。
- ・生物の授業は難しい漢字が出てくったり、聞き流したりしてしまうこともあるが先生が工夫して生徒が興味を持てる内容だった。先生と生徒の関係が良好で生徒が安心して授業を受けている様子で良かったと思う。
- ・携帯電話の使用について授業時に教員の指示で生徒は直しているが、机の中でこそこそしている生徒がいた。「授業では使用禁止」ではなく TPO に応じて生徒が自分で判断できるようになれば良いなと思う。
- ・渡日生の人数が前回より多くなった気がする。人数に変化はありましたか？
- ・違うルーツの生徒同士が仲良く笑顔で取り組んでいるのが良かった。

【塚本委員】

- ・卒業生として授業を見学したが、当時と雰囲気が大きく変わった。当時はただ勉強するのみだったが今は生徒が和気藹々と楽しそうに授業を受けており、実社会で役に立つ内容も扱われていた。社会に出ていく前に必要な社会人基礎力について学べるのはとても良いことだと感じた。
- ・様々なルーツの生徒が在籍していることは本校の強み。多文化教育の先進的なモデル校となるよう今後もこの強みを活かして頑張してほしい。

【巽首席】

- ・第1回(今年度)から渡日生の数は出席率に大きな変化はない。グループワークで生徒が固まっていたので前回より人数が多く見えたかもしれない。

【中川教頭】

- ・昨年と比べると今年度は16名募集に加えて「回し合格」があり、昨年よりも人数は増えている。

【冨本校長】

- ・日本語指導が必要な生徒への入試の枠がある高校は大阪府下で8校ある。昨年度、本校は16名募集だった。特別選抜の方で定員が割れた場合は、この16名に入れなかった生徒も割れた人数の範囲で合格となる。明日の学校説明会参加者の3分の1は渡日生である。保護者・生徒の日本語力もさまざま

までである。

【花井教頭】

- ・ 校内の美化についてはエンパワメントスクールに改編され生徒の層(雰囲気)が大きく変わった。清掃員の方が非常に丁寧に校内を清掃してくださっている。せっかく掃除してくださっている校内を汚損しないようにする意識ができていると考えている。

【松井事務長】

- ・ これまで府立高校には、いわゆる用務員さんがいた。現在は業者委託しており、清掃に来ていただいている方には大変丁寧にさせていただいている。

【巽首席】

- ・ 生徒は毎日教室を清掃している。廊下・階段・トイレなどは清掃員の方にお任せしている。

【花井教頭】 布施北高校の「今」中間報告を用いて説明

① 学校の広報について

- ➔ 本校の入学希望者が減少していることに危機感を持ち、広報の方法、データの共有、その他様々な取り組みについて情報を共有した。

② 外部からの視察等を紹介

- ➔ 外部視察、TV 番組の取材、新聞での取材、韓国のデイル観光高校との国際交流について紹介した。これらの経験を通して教員が自らの勤務校に誇りを持てるようインナーブランディング向上のための材料としたい。

③ キャリア教育(インターンシップ・デュアル実習について)

- ・ 1年生のインターンシップ事後アンケート結果を共有した。(今年度は欠席者が非常に少なかった)
- ・ 次年度のデュアル実習選択希望者数を共有した。(新2年生は133名、新3年生は44名)
- ・ 本年度は総合学科発表会にて本校生徒がポスターセッションに参加予定であることを共有した。

④ 生徒指導について

- ・ いじめ事象の生起、欠席・遅刻の情報、生徒指導方針の一部改正について情報共有を行った。

⑤ 進路指導について

- ・ 就職第1次斡旋の結果、現時点での進学状況の情報共有を行った。

⑥ 各学年の情報について

- ・ パワーポイントで写真等の資料をご覧いただき、各学年行事についての情報を共有した。
(1、3年生の遠足、2年生の修学旅行準備、3年生の芸術鑑賞等)

⑦ 「デュアルシステムの継続的发展を支える布施北高校地域学校協働本部」での会議内容を報告した。

- ・ 「働き方改革」に伴い、教員の実習巡回の負担軽減についての様々なご意見をいただいた。
- ・ 12月18日実施のデュアル実習分野別説明会の流れの確認をしたことを報告した。

⑧ 渡日生についての情報共有を行った。

- ・ 渡日生徒と日本にルーツがある生徒の間で不和が生じた。
- ・ 本校の渡日生が、海外にルーツがある中学生に向けた通訳などのボランティア活動に積極的に参加してくれている。
- ・ 大阪府在日外国人教育研究協議会(府立外教)主催の人権研修にて、本校教員が本校の渡日生の学校生活に関する事例発表を行う。

【松下会長】

- ・先生たち一人ひとりが定員割れについて強い危機感を持っているのは良いことだ。どのように広報するかは企業のマーケティングに近い。「誰でもいい」ではなく、本校が大切にしているものを伝え、どんな生徒に入学してもらいたいかの意思表示もできていることは良いことである。

【藤田副会長】

- ・学校の良さを伝えるには、訪問する中学校に在校生を連れていくのが一番良いと思う。立派な生徒の姿を見せることが何より大切である。

【菊地委員】

- ・学校をアピールするには保護者へのマーケティングも重要。子ども達が高校を卒業後どうなるのかをイメージし、安心できることが大切である。本校は生徒たちがデュアル実習で得た経験を重点的にアピールできるという強みがあることを上手く広報に活かしてほしい。

【松下会長】

- ・マーケティングの観点から見ると、「外国の生徒と一緒に学校生活を送ることができる」ということは良いアピールポイントである。企業も国際化が進む中、高校生という早い時期から多文化交流ができれば違いを認め合いながら学べるというのは素晴らしいことである。

【菊地委員】

- ・「いじめ」に関して大切なことは当事者同士の気持ちを聞き取ることである。事象を表面的に捉えず、その根幹部分にどのような気持ちや考えがあったのかを丁寧に聞き取り解消に向けて指導してほしい。

【塚本委員】

- ・生徒間のトラブルに関して、固定概念に囚われず、お互いの生徒の気持ちを尊重しながら解決策を探さなければならない。差別を表面的に抑えるではなく、しっかりと根本解決に向かってほしい。抑えられていた差別は一つ起こるとすぐに周りにも広がるがあるのでしっかりと解決してほしい。

【浅岡委員】

- ・生徒指導提要も改訂され、いかに子ども達の不登校を無くし、安心して登校できるようにするか、子どもが自ら考えて行動できるようになるかに焦点を当てる必要がある。「ルールメイキング」も先生方と生徒と一緒に考えないといけない。例えば携帯電話の使用など、どういう場面でどう使うかをしっかり学ばないといけない。主体性があり、自分の判断で行動できる生徒を育てないといけない。そんな中で学校の生徒指導の方針などについて学校はどのように考えているか聞きたい。

→回答：【花井教頭】

- ・生徒指導に関しては、生徒に「ルールだから」と説明をしても伝わらない。生徒指導部長をしていたときに大切にしてきたことは「なぜこの指導やルールがあるか」をしっかり生徒・保護者に伝えることでした。私たちの仕事は「卒業証書を渡して終わり」ではなく、卒業後に社会でしっかりと生きていく力をつけさせることだ、と考えており、「こんな力をつけてほしい」、「こんな社会人になって欲しい」という思いを伝えていくことが大切だと考えている。保護者からもたくさん問い合わせがあるが、その度に、学校の考えを伝え、一定理解を得てきたと考えている。

【松下会長】

- ・ 中小企業連同友会に依頼があり他の高校と連携して、29 名の生徒に対してキャリア教育に関する授業を行った。就職で合格を勝ち取るためには、学校だけではなく広く企業側の気持ちを理解する必要がある。人材は不足しているが、「誰でも良い」というわけではない。大切なことは「すぐに会社に入ってから即戦力として活躍できる人材」である。企業の声を聴くなど、学校外との繋がりを大切にすることで見えてくるものがあるはず。

次回の会議日程	
日 時	令和 7 年2月1日(土)を予定
会 場	大阪府立布施北高等学校